

(資料 6-2-8 : 修士課程看護学専攻大学院生による学習評価)

「学習目標の達成度」「授業科目別の学習評価」についての回答結果 (H.16年度~19年度 院生による学習評価調査の一部抜粋)

調査年度			平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
回収数 (回収率)			1 年生 : 9 名 (90.0%) 2 年生以降 : 4 名 (80.0%)	1 年生 : 5 名 (100%) 2 年生以降 : 11 名 (100%)	1 年生 : 7 名 (87.5%) 2 年生以降 : 4 名 (80.0%)	1 年生 : 17 名 (94.4%) 2 年生以降 : 1 名 (5.6%)
学習目標 の達成度	1 年生	十分に達成	0 名	0 名	0 名	1 名 (5.9%)
		ある程度達成	7 名 (77.8%)	2 名 (40.0%)	5 名 (71.4%)	9 名 (52.9%)
		不十分	2 名 (22.2%)	3 名 (60.0%)	2 名 (28.6%)	7 名 (41.2%)
	2 年生 以降	十分に達成	0 名	3 名 (27.3%)	0 名	—
		ある程度達成	3 名 (75.0%)	7 名 (63.6%)	2 名 (50.0%)	—
		不十分	1 名 (25.0%)	1 名 (9.1%)	2 名 (50.0%)	—
授業科目別 の学習評価 (自由記述を 一部抜粋)	1 年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漠然とした疑問を研究テーマとして絞る過程で、一つ一つを押さえながら積み上げることで、自分の考えを言語化することの難しさを学んだ。</li> <li>・ 自分の考えをプレゼンテーションや論文において表現し、他者にわかりやすく伝えることを学んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くのことを経験させていただき、これまでの自分のいろいろな事柄への向き合い方を振り返ることができた。</li> <li>・ 自分の学習時間が少ないため学びが不十分と感じられ、もっと頑張らなければならないと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護学の共通基盤となる要素と本質・概念を学ぶ中で「学問とは何か」を考えるきっかけになった。</li> <li>・ 社会変動の中での看護職の役割について再確認できた。</li> <li>・ クリティークの考え方や方法を学んだ。研究指導以外の教員や他の院生の意見を聞きながら研究を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の臨床経験を客観的にみることができた。また看護倫理や看護研究などの授業では全く新しい知識を得ることができた。</li> <li>・ 今まで知らなかったことについての知識が増え、それに対して自分の考えを明らかにすることができた。また、看護学についても学び直すことができた。</li> </ul>	
	2 年生以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の看護観をこれまで以上に深く考える機会となった。</li> <li>・ 様々な視点から多面的に看護について考えることができた。</li> <li>・ 看護の本質を考え学べた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護理論の勉強を通して、「看護」に対する理解が広がった。</li> <li>・ 看護の本質や、研究論文を作成する上での基本を学ぶことができた。今後、研究を重ねていく上での貴重な経験であったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他領域の学生とのディスカッションや教員の指導は、自己の看護に関する視野を広げる上で学習になった。</li> <li>・ 課題を明確にしていくことや何が問われているのかを理解していくことなどを学習することができた。</li> </ul>		